

会 報

公益社団法人 日本技術士会 中部本部 静岡県支部
事務局連絡先 Phone : 080-9495-8566 E-mail : ipej-shizu@ipej-shizu.sakura.ne.jp
支部長 : 山之上誠 事務局長 : 岩田良明 会計 : 鈴木敏弘 広報 : 関根洋子・中山久仁厚

第5回例会 (見学会)

1. 概要

日 時 : 2019年12月14日(土) 13:20~
会 場 : 特種東海製紙Pam(Paper and material)
(静岡県駿東郡長泉町本宿 437)
参加者 : 38名(交流会 24名)

2. 内容

2.1 見学施設概要

特種東海製紙 Pam は、特種東海製紙株式会社三島工場の北側に位置する。2002年開館に開館以来研究開発活動と営業販売支援活動拠点としての役割を担ってきた。

建物は、坂茂氏による設計で、旧実験工場建屋をリノベーションしたものである。

2.1 見学概要

当日は、三島工場 管理部 部長 室伏敬治様、Pam 館長 千葉寿子様、Pam 学芸員 雨宮早栄子様にご案内いただいた。



まず、特種東海製紙の歴史、三島工場で製造されている特殊紙に関する説明をしていた。その後膨大な資料により、「すかし」などこれまで培われてきた特殊紙の歴史と最新の研究、技術についてご説明いただいた。

Pam では、三島工場ですべて製造した特殊紙とともに、研究のために世界中から集めた様々な特殊紙が保管・展示されている。自転車のスポークを包むための紙や、レコード針を包む紙、花札用紙、レントゲン用紙、日韓サッカーワールドカップの開会式の入場券など、多岐にわたる紙が展示され、大変興味深い内容であった。



(Basic Zone: 様々な特殊紙のコレクション)

2.1 特殊紙の概要と三島工場のこだわり

特殊紙には、大きく分けて特殊機能紙と特殊印刷用紙があることについてご説明いた

いた。特殊機能紙は、偽造防止が施されたもの(商品券等)やプライバシー保護のための圧着はがき用紙(銀行等から送られてくるもの)、医療用注射器の包材、お惣菜の包材に使われる耐油紙など幅広い。冬季長野オリンピックの選手村の ID カードにも特種東海製紙の技術が採用された。

特殊印刷用紙には、ファンシーペーパーと高級印刷用紙がある。ファンシーペーパーは、単行本の装丁(国内で出版される多くの本に使われている)やパッケージなど多方面で使われており、発色へのこだわりが紹介された。高級印刷用紙は、写真集やポスターなどで多く用いられ、写真がきれいに印刷できるように特化した紙である。1964年の東京オリンピックのポスターも、特種東海製紙の印刷用紙が使用されている。



(Creative Zone: ファンシーペーパーのサンプル)

製造にあたってのこだわりは、「Clean」であることが紹介された。一つには、工場がきれいであること。医療用や食品用に使用される特殊紙もあるため、害虫等の混入が無いよう細心の注意が払われており、食品工場と同様に作業員はエアシャワーラインを通過して場内に入場すること、作業員の出入りを少なくしていること、紙すきを行う場所は4階以上で昆虫が入りにくい場所にあるなど工夫さ

れている。もう一つの「Clean」は、環境負荷低減への取組である。工場で排出する CO2 の大幅削減に加え、特殊紙の性質上水の再利用ができないため、排水は場内で浄水しきれいな状態で工場外へ排出するなど環境に配慮しながら特殊紙が製造されていた。

2.2 見学を終えて

「特殊紙」は普段の生活のなかで目にしているものばかりであったが、製造過程での多くの高度な技術に触れ驚きが大きかった。1926年創業という歴史の中で培われた技術、特殊紙への想いに触れることができる機会となった。展示方法もデジタルコンテンツが取り入れられ、建物も含めデザイン性も高く、様々な視点で楽しめる施設であった。

特殊紙の最新技術に対しては、参加した会員から活用方法に関する質問や意見が出るなど興味の高さが伺えた。また「近隣に住んでいるが初めて来た」、「地元こんな技術があるのは知らなかった」という声も寄せられた。改めて、技術士として地元で培われている技術を知ることの大切さを再認識する絶好の機会となった。

プラスチック製品の削減が、世界的に課題となっていることを考えると、今後の特殊紙の活用に期待が集まるかもしれない。



(文責：関根洋子(森林))

2019年度 講演会(第6回 CPD 例会)

1. 概要

日時：令和2年2月22日(土) 13:30～16:40
会場：静岡県男女共同参画センターあざれあ
参加者：29名(交流会14名)

2. 講演内容

【講演Ⅰ】

「光触媒の基礎から応用まで」

独立研究開発法人 産業技術総合研究所

主任研究員 平川力氏



(講演内容)

光触媒とは何かといった基本的なことから実用例まで幅広くお話いただいた。

光触媒は、光エネルギーで駆動する触媒である。光が波(電磁波)であるとともに、粒子の特性を持っており、酸化チタンなどに光が当たることで「酸化分解力」と「超親水性」の作用を発揮し、防錆、防汚、大気浄化、脱臭、浄水、抗菌などの効果が得られる。

光触媒は日本で発見された。日本の研究開発が先行しており、性能評価方法についても日本が戦略的に国際標準化を進めている。

現在も、テロ対策、マイクロプラスチックやPM2.5の分解などへの適用拡大や、マイクロバブル併用による水質浄化、超臨界媒体中での反応など、様々な分野での研究開発が行われている。(文責：松代麻理子(情報工学))

【講演Ⅱ】

「業務のe化のその先にプロセスマイニングがある」

富士通株式会社 マネージングコンサルタント
ト 野村和哉氏



(講演内容)

業務のe化とプロセスマイニングについてお話をいただいた。

業務のe化(電子化)は、業務にデジタルツールを使うことである。例えば、建設現場や製造工場で各種センサーを用いて、作業者の行動を見える化して、工程管理や安全管理を行う。しかし、業務を電子化しても、データの蓄積だけでは、業務改善効果は得られない場合もあり、その利活用が重要となる。そこには業務プロセスを改善する視点(プロセスマイニング)が必要となる。

プロセスマイニングは、業務で発生した情報(記録)から知識を抽出する技術である。

方法として、業務活用シーンから、最適プロセスの把握、業務上の異常発見、原因プロセスを特定する。その後、プロセスマイニングツールを使用して、業務の可視化・対策の検討を行い、新プロセスを実施する。再度、モニタリングすることで、改革上の問題点を明らかにすることができる。

(文責：内藤克己(機械))

日本技術士会静岡県支部災害時支援活動計画（SAPD）について

1. 災害支援計画策定までの流れ

日本技術士会はこれまで、各県支部と協業し、東日本大震災や広島土砂災害、熊本地震などで、被災にした自治体や一般被災者への支援活動を行ってきました。

静岡県支部は、静岡市「災害時における市民への復興まちづくりの助言に関する協定」、牧之原市「公共土木施設のマネジメントに係る技術助言に関する包括協定」を締結及び静岡県交通基盤部「大規模災害時における被災箇所への復旧に係る助言に関する協定書」の協定を結び、さらに静岡県災害対策士業連絡会へ加入し、静岡県と「災害時における相談業務に関する合意書」を交わしました。

このように関係組織と正式に協定や合意書を取り交すことで日本技術士会静岡県支部の社会的な立場や認知度も高まっています。この社会的な要請に責任をもって対処していくためには、静岡県支部の災害時支援体制に係る具体的な行動計画の充実が必要と考え、統括本部の「災害時支援活動計画」も参考にしながら、静岡県支部防災支援委員会と防災研究会で県支部の「災害時支援活動計画」を策定しました。

2. 災害支援計画の概要

静岡県内はもとより近隣他県においても、災害時支援活動が必要な状況となった場合は、「静岡県支部防災会議」を設置し（以下防災会議と言う）、日本技術士会防災支援委員会、中部本部、静岡県、関係自治体及び静岡県災害対策士業連絡会等と連携し災害時支援活動を行う。また、この活動基本計画は、社会情勢の変化や支部役員改選に合わせて見直すなどフレキシブルにこれらの活動を通して社会

なお当支部の支援活動は2種に分けられ、A：一般支援活動（専門技術者を含む防災支援員による被災者現地支援活動）とB：協定締結支援活動（主として専門技術者によるアドバイス等）としています。

実際の発災時の活動フローは次ページに示してあります。最初の行動として防災会議を設置しますが、その設置基準は①震度6弱以上が静岡県、愛知県、岐阜県、三重県で発生した場合、②大規模な土砂災害、河川の氾濫浸水が静岡県内で発生した場合、③日本技術士会、中部本部、静岡県、関係自治体及び静岡県災害対策士業連絡会からの要請があった場合、④その他静岡県支部長が必要と判断した場合であり、全国で発生した災害に対処するわけでもなく、静岡県内に限られているわけではありません。あくまでも技術士として静岡県支部の社会的責任を判断してからの活動となります。

3. 具体的な活動内容

先の台風19号災害で静岡県内でも数カ所で被害がありましたが、そのうち伊豆の国市と函南町でこの計画実施の第一号となる活動が行われました（別記事参照）。

また、特徴的なことは、実際の活動から生まれる新たな防災上の問題や災害支援に対する課題が生まれることを受け止め、次の計画をはじめ支援活動に反映するシステムにあります。

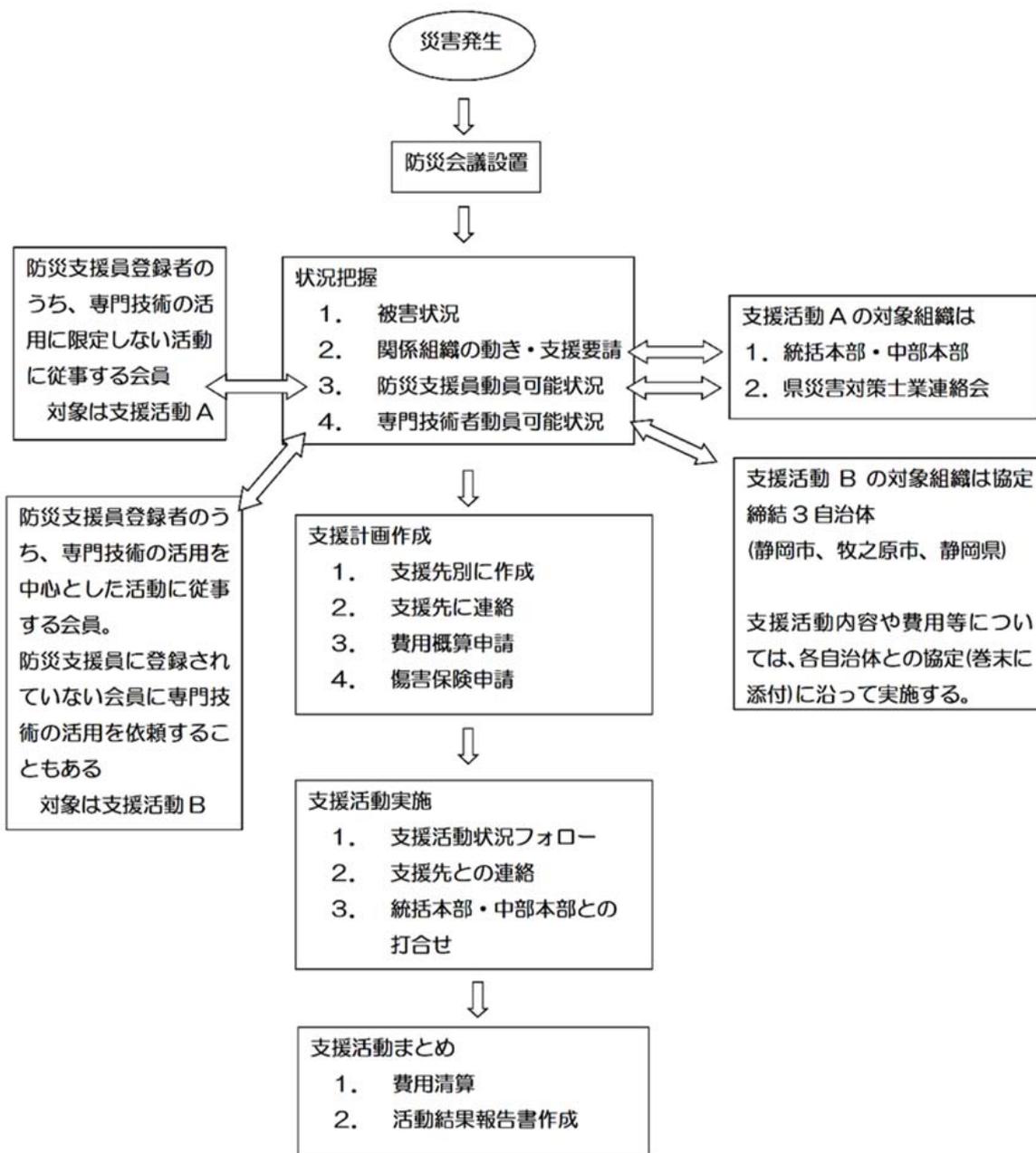
しかしながら、この計画を実行するには静岡支部に所属する技術士皆様のご賛同やご協力を得なければなりません。静岡県支部は、「防災支援員」を随時募集しております（別添登録票ご活用ください）。

詳しくは、技術士会中部本部静岡県支部のホームページをご覧ください。興味をお持ちの方で詳しいことをご知りになりたい方、登録を迷われている方など、ご質問等は随時受け付けております。

なお、支援に係わる交通費等の費用については、その都度負担補助等を検討します。

また、支援の報酬ないのですが、障害短期保険に加入して活動して頂きます。

(文責：災害委員長 柴田達哉)



日本技術士会中部本部静岡県支部災害支援フロー図

台風19号被災者支援活動報告

静岡県支部として初めて自然災害の被災者支援活動に参加したので以下に報告する。

1. 背景

昨年10月12～13日に伊豆半島を襲った台風19号により、死者1名、家屋の全壊、半壊、床上浸水、床下浸水など甚大な被害が生じた。

2. 被災者支援の呼びかけ

静岡県支部は、2018年に静岡県災害対策士業連絡会に加入している。同会は弁護士会、司法書士会など13団体が所属しているが、これまで連絡会として被災者支援活動を行ったことはなかった。同会を統括する弁護士会は、地元自治体と打合せ、被害が大きかった伊豆の国市と函南町の被災者支援活動を所属の士業に参加を呼びかけた。県支部としても「災害時支援活動計画(別記事参照)」を制定しており、防災支援員も20名余登録されているので同計画に沿って活動することとした。

3. 現地支援活動概況

県支部では現地支援に赴ける防災支援員を募り、4日間に亘り活動した

- (1) 伊豆の国市(第一回) 10月30日、31日
7名参加(うち1名は両日)
- (2) 函南町 11月18日
3名参加
- (3) 伊豆の国市(第二回) 11月24日
3名参加

4. 現地支援活動状況

士業連絡会があらかじめ広く配布したPRビラ「令和元年台風19号災害専門家による無料生活何でも相談」を見た被災者が、会場となる

法律系と技術系に分かれて机を共にし、相談内容ごとにアドバイスした。



(相談会の様子)

被災者といっても避難所生活をしているわけではなく、要望は自宅の半壊や浸水への対応、補助金の有無、地盤関連の相談事等であった。全体として法的相談事が多く、技術士なればこそその相談事は少なかった。

5. 活動の振り返り

5-1. 県支部としての反省

- ① 他士業は支援できる活動を記した説明パンフレットや士業名を記したヘルメットやビブスを用意しているが当会は準備されていない。
- ② 一般被災者に対する技術士会としての支援内容・役割が明確でない。

上記2点に対し、その後ビブス等は用意したが、②については地域自治会でのハザードマップ等の研修や、技術士専門分野ごとの支援活動の整理、小学校での理科授業における防災教育の拡充等を検討している。

5-2. 士業連絡会としての総括

今後の費用負担対応等について2月25日に防災研究会で検討を行った、

(文責：防災研究会会長 吉田建彦)

日本技術士会中部本部静岡県支部では、災害時における社会的な要請に責任をもって対処していくために、統括本部の「災害時支援活動計画」を基本に、静岡県版「災害時支援活動計画」を策定しています。

災害時支援活動計画は、あなたの力で成長してゆきます。PDCAを活用し、防災に関する勉強会や行政との懇談会また具体的支援活動を通して、より進化・深化・真価を目指します。

「災害時支援活動計画」とは？

静岡県内はもとより近隣他県においても、災害時支援活動が必要な状況となった場合は、「静岡県支部防災会議」を設置し、日本技術士会防災支援委員会、日本技術士会中部本部、静岡県ならびに関係自治体、および静岡県災害対策士業連絡会等と連携し災害時支援活動を行います。

被災内容を分析し、現地でのニーズにあった専門技術者をもった支援員を派遣し、助言等を行います。各専門分野の知識を生かして、被災者や企業がいち早く立ち直れるための支援を目的とします。

防 災 支 援 員 募 集

（災害と技術士会の関わり）

日本技術士会は、東日本大震災や広島土砂災害、熊本地震、直近では西日本豪雨災害において被災した自治体や一般被災者に対してできる支援活動を行ってきました。

（静岡県支部の防災に関する取組）

静岡県支部では、複数の自治体と災害協定を交わし協力体制を整えてきました。一方で、静岡県防災センターでのこども防災教室への積極的に参加し、技術士として防災に関する技術、知識を多くの県民に伝える取組を実施しています。



（これからの活動のために）

関係自治体等と「協定や合意書」を取り交すことで技術士会静岡県支部の社会的な立場や認知度も高まってきています。今後は、静岡県支部の災害時支援の具体的な支援体制の充実と具体的な活動をイメージしておくことが今後のミッションとなると考えています。そのために、静岡県支部の防災支援員を募集し、来たる日のために準備して行きたいと考えます。静岡県の防災に技術士としてのあなたの力を！

防災支援員への応募は、登録票記入または、**まずは参加希望表明**をご連絡ください。

（登録票は静岡県支部HPに掲載しています。メール等でもお送りいたします。）

何かやってみたいけど何ができるかわからない、具体的な話を聞きたいなど、お気軽にお問い合わせください。



公益社団法人 日本技術士会
The Institution of Professional Engineers, Japan

中部本部 静岡県支部 防災委員会

TEL : 080-9495-8566 E-mail : ipej-shizu@ipej-shizu.sakura.ne.jp
<http://ipej-shizu.sakura.ne.jp/>

2020/03/02

浙江省関係の行事(2019年11月)

2019年11月に当支部では中華人民共和国の浙江省の関係者と以下の2つの技術交流の機会を持ちました。詳細な報告は今後の例会時に報告しますが以下に概要を記します。

1. 2019 グローバル・ビジネスマッチング in 浙江省及び企業指導

出張会員 加藤信之 (電気電子)
宮野正克 (経営工学)
森一明 (機械、経営工学)

主催者 浙江省人民政府、中国科学院
今回の上記タイトルの交流イベントは中国浙江省科学技術中心から当支部へ招待があったものである。

期間と主な訪問都市

2019年11月8日 ～ 2019年11月13日
浙江省 杭州市、瑞安市

2019 グローバル・ビジネスマッチング会

海外の大学、組織、企業、浙江省政府、科学技術庁、各組織から総勢500名の参加者数であった。技術士会としては、栃木県支部から1名、静岡県支部から3名が参加した。

ビジネスマッチング会ではダブルツリーバイ

ヒルトン杭州ホテルで展示会が開催され、3人は以下のテーマについて展示を行った。

「3H初めて変更久しぶり」(宮野)
「商品開発におけるVE」(加藤)
「純鉄の精密一貫加工」(森)

感想(宮野)

科学技術交流大会参加者を対象に、パネル展示と技術交流を行った。中国では大型設備投資を必要としない人間中心の技術が、今後はますます重要になっていく予感を得た。3H関連著書として自著の中国語翻訳版の発刊を企画しており、発刊がこれからの日中間の国際貢献に資すれば幸いだと考える。

感想(加藤)

マッチング会の開会式では、2001年にトリアゾール合成でノーベル化学賞を受賞した Karl Barry Sharpless 教授をはじめ、3名の超有名人を招聘しての内容で、中国政府の今回のイベントへの期待度がわかる。

これらの招待客をパネラーとして、「科学技術のグローバル化でのイノベーションとその共有」と題して若いエンジニア向けのパネルディスカッションも実施された。若者への期待は国家が変わっても同じなのだと理解した。



ビジネスマッチング会場にて
(左より)

加藤

宮野

浙江省科学技術センター長

張要武氏

森

感想（森）

3年振りに浙江省との技術交流イベントに参加。中華人民共和国建国70周年に当たり浙江省人民政府主催の大きなイベントだった。10年前に浙江省、静岡県、栃木県、福井県の合同技術交流会に宮野正克さん、佐藤仁一さんと一緒に参加したことを思い出した。また各国の大学、組織、企業との技術交流調印式が大々的に行われたことも印象に残った。

セミナー

瑞安市における技術セミナー（技術講演）

「5Sから3Hへ」（宮野）

「商品開発におけるVE」（加藤）

「MQLによる高効率加工」（森）

講演 「5Sから3Hへ」（宮野）

5S（整理、整頓、清掃、清潔、躰）、3H（初めて、変更、久しぶり）、中国の多くの製造業では莫大な投資をして大量生産体制ができている。更なる発展には設備投資に頼らない人間的側面の革新が必須であり、これには5Sを徹底し企業の底力を高めるとともにヒューマンエラー対策として、初めて、変更、久しぶりの業務を重点管理する3Hを体系的に取り組み、成果を上げている事例を紹介した。

セミナー参加者はとても熱心であった。（写真1）

講演「商品開発におけるVE」（加藤）

中国では、VE（Value Engineering）はまだまだ未発展（と聞いていた）であるが、興味を持ちながら聴講して頂いたようで、まずまずの成功かなと考える。中国では、これまではどちらかという、いかに最短で最大の儲けができ

るかを重視する認識だったので、手間がかかるVEは敬遠されがちであった。しかし、昨年度から自動車生産台数が減少に転じてくると、ある程度の時間をかけてでも、自分たちで世界唯一の製品を開発していく必要がある認識へと変化しつつあるのでは、と推定された。

これからの中国企業の将来を考えても、VEを重視する方向にシフトしていくことが望まれる。



写真1 セミナー講演（宮野）

企業訪問 報告（森）

瑞安市自動車部品産業集積地区

会社名：瑞明集団 Ruiming

自動車用クランクケース、シリンダーヘッド、シリンダボディなどのアルミ角物を製造しているメーカー。ベンツ、Audi、BMWなど日米欧の自動車メーカーからの受注もこなしており、価格競争より品質第一を追及しているとのことである。

工場では、シリンダブロック加工ラインでのロボット搬送による全自動ラインなど、生産ラインの省力化が進んでいる。

自動化前の社員23人から3人と大幅に人員削減できた。投資回収はまだ赤字であるが、このラインを顧客が見て受注に繋がる目に見えない効果が大きいとのことである。（写真2）



写真2 シリンダーヘッドの展示品

2. 浙江省建設業交流団対応

静岡県日中友好協会を通して浙江省工程建設質量管理協会の視察団一行への技術交流対応が要請され、これに当支部が対応した。

対応日 11月21日 (写真3)

団長 浙江省建設投資集团股份有限公司副総工師 施炯氏 他 企業9社 (全12名)

対応者 馬渕大機 (建設)
岩田良明 (建設、総監) 副支部長
岡井政彦 (電気電子) 副支部長

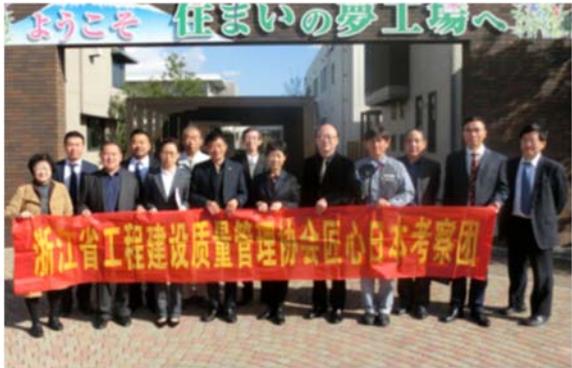


写真3 訪日団一行 (積水ハウス㈱静岡工場にて)

中国側の訪問の目的

日本の建築関連技術・品質保証に対する理解を深めるため下記の2点を学ぶ。

- ① 組立て部材の生産過程の品質管理
- ② 施工過程における品質保証

中国側の要望に応じて、馬渕氏の前勤務先であった積水ハウス㈱様に静岡工場の視察と施工現場の見学をお願いした。

意見交換会 (写真4)

積水ハウス工場視察後に技術的な意見交換会を持った。意見交換会は岡井副支部長の訪問団歓迎の挨拶から始まり、今回の静岡訪問への相互の挨拶から和やかにスタートした。

日中双方のやり取りの大半は、ハウスメーカーがどのように材料を調達しているのか、日本における施工管理のあり方について質問が集中した。

中国では家屋の材料を製作するメーカーと現場で建設する会社は別々であるとのことで、日本との建築体制の違いがある。このため、施工側と材料提供側に齟齬が生じ、特に施工の品質低下が課題となっている。日本では一般にハウスメーカーが自社あるいは系列の建設会社により部品から組み立てまで一連の作業工程を統括して施工しているので、建築物の品質の問題は比較的少ない。建築基準法の議論では、1級建築士資格も有する馬渕氏から中国側の質問に的確に答えて頂いた。

静岡県日中友好協会を介した交流事業だったが、双方非常に熱心に意見交換を行い大変有意義な訪問団受け入れであった。



写真4 意見交換会 (静岡 あざれあ会議室)
(編集校正 副支部長 岡井政彦)

ご案内

静岡県内の技術士試験合格者の皆様へ

公益社団法人日本技術士会 中部本部静岡県支部
支部長 山之上 誠

静岡県支部の技術士試験合格者説明会の開催について（案内）

この度は、難関の技術士第一次、同第二次試験に見事合格され、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

つきましては、今後、静岡県支部の会員としてご活躍をご期待申し上げる次第ですが、皆様の合格をお祝いし、下記のとおり技術士会の活動等の紹介及び説明会とその後に懇親会を開催いたしますので、是非ご参加下さいますようご案内申し上げます。

お手数でも出欠を3月28日(土)までに、FAXまたはEメールにて下記事項を記載の上、事務局まで申し込んで下さい。

※説明会に出席されない場合でも、差し支えがなければ静岡県支部あてに住所をお知らせ願えれば、支部の紹介資料をお送りします。

注) 説明会及び懇親会については、新型コロナウイルスの状況により中止になる場合がありますので支部のホームページをご覧ください。

記

日 時：2020（令和2）年4月25日（土）説明会 15:00～16:30

懇親会 17:00～19:00

場 所：静岡県男女共同参画センターあざれあ 第2会議室

（JR静岡駅北口、国1号沿いに浜松方面へ徒歩10分）

- ・技術士会静岡県支部の紹介
- ・合格者及び会員との質疑応答
- ・懇親会等（場所未定：あざれあ付近）

会 費：合格者 2,000円（懇親会費含む 当日会場にて申し受けます。）

技術士会会員 3,500円

出席者：新合格者、静岡県支部会員

申込先：公益社団法人 日本技術士会中部本部 静岡県支部事務局長 岩田良明

〒421-0217 焼津市上泉 707-27

FAX (054)622-6388

E-mail：ipej-shizu@ipej-shizu.sakura.ne.jp

※技術士会会員のみなさまのお知り合いで合格者の方がいらっしゃいましたら、説明会への参加および技術士会への入会をご案内いただくと幸いです。また、講演会等へもお誘いあわせの上ご参加ください。

お知らせ

■今後の予定

名称	月日	時間	場所	内容
2020年度 第1回講演会 (CPD例会)	2020年 4月18日(土)	13時より 受付	静岡県男女共同参画 センターあざれあ	「浙江省国際マッチング大会出席 報告」加藤信之会員 「チャ害虫の総合的管理体系と日 本茶の輸出促進戦略(仮)」 農業食品産業技術総合研究機構 佐合安志氏
合格者説明会	4月25日(土)	15時から	静岡県男女共同参画 センターあざれあ	新規合格者へ当支部活動について ご紹介
年次総会 第2回講演会 (CPD例会)	6月6日(土)	13時より 受付	静岡県労政会館	現在準備中
第3回講演会 (CPD例会)	8月22日(土)	13時より 受付	静岡県男女共同参画 センターあざれあ	現在準備中

※講演会ではCPD証明書を発行いたします。CPD時間：3.0h

※講演会に関するご要望(講演内容等)がございましたら、お気軽にご意見お寄せください。

※会員の方には、メーリングリストにて、随時行事の案内をお知らせいたします。メーリングリストご登録希望の方は、事務局までご連絡ください。

※テクノロジカフェは、月1回開催しています。講師も継続募集中です。ご興味のある方は、お問い合わせください。

※理科支援授業の講師も随時募集しております。皆さんの技術分野を生かして、子供たちに理科を教えてみませんか？

※新たな研究会も発足予定「オープン CAE」「プログラミング教育」、ご興味のある方ぜひお問い合わせください。



事務局：〒421-0217 静岡県焼津市上泉 707-27

TEL：080-9495-8566 E-mail：ipej-shizu@ipej-shizu.sakura.ne.jp

<http://ipej-shizu.sakura.ne.jp/>

日本技術士会中部本部静岡県支部防災支援員の登録

年 月 日

静岡県支部の防災計画の支援者登録を行います。

氏 名		部 門		
生年月日		性別	男	女
連絡先	自宅固定電話	()		
	自宅FAX	()		
	携帯			
	個人E-mailアドレス			
	勤務先			
	勤務先固定電話	()		
	勤務先FAX	()		
	勤務先E-mailアドレス			
	他の緊急時の連絡方法			
対応可能条件	休日のみ	平日も可	その他()	
	自宅からの距離	1時間以内	1～5時間以内	時間に制限は無い
	自動車運転の可否	可	否	状況による
	自家用車の使用	可	否	状況による
その他 (出勤条件について健康状態・身体機能等について特記しておきたいことをお書きください)				
関連資格 (自動車免許を含め、災害支援・防災またはインフラ整備に関する資格をお書きください)	資 格 名	認 定 機 関		

防災支援員とは、災害発生時に技術士会として災害対応支援を行う際の要員のこと
 <参考資料>統括本部災害時支援活動計画、静岡県版災害支援活動計画、被害者現地支援活動基礎知識Q&A61冊
 防災支援員は、定期的な活動方法の手順や防災支援者スキルを維持向上のための教育・訓練を受ける。
 記載内容は、災害時支援員の選定の際に使用させていただきます。また、毎年更新登録を行います。
 *個人情報については技術士法第45条の「秘密保持義務」及び個人情報保護法に基づき保護いたします。

(裏面に続く)

対応可能な分野・地域について

部門における 専門分野	部 門		
	部 門		
	部 門		
よろず相談員	被災者からの多様な相談への対応： 可 否		
被災した際の 復旧対策や工 法に対しての 技術的助言で きる項目	ダム	橋梁	道路・道路構造物
	砂防施設	崩壊・地すべり	河川・河川構造物
	下水道施設	港湾施設	海岸・海岸構造物
	公園	土質・地質	急傾斜地崩壊防止施設
	都市復興計画	電力	施工計画・設備及び積算
	トンネル	鋼・コンクリート	宅地造成・住宅基礎地盤
	機械設備（全般）技術	船舶・海洋技術	電気・エネルギーシステム技術
	電気応用技術	情報・システム技術	電気設備技術
	無機化学技術	有機化学技術	高分子化学技術
	繊維関係技術	金属関係技術	資源・探査技術技術
対応できる項 目に○をお書 きください。 複数可	上水・工業用水	水質関係技術	廃棄物関係技術
	畜産	農業・食品	建築物環境衛生管理
	農業土木施設	農村復興計画	植物関係技術
	森林土木	水産施設関係	水産土木
	BCP	企業経営復興	物流・サプライチェーン関係
	生物関係	環境保全	地球科学・地震・気象
	環境計測	自然環境保全	環境影響
	原子力	放射能関連	森林環境
その他（技術士と して災害発生時の 支援できる項目内 容）			
支援活動が出来る 地域	全国	中部本管内	静岡県内
	県西部	県中部	県西部
	その他さらに小さな範囲	市内	町内